



東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.10



2025年1月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島

〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111〈内線 208〉

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

家庭教育「なう」は、恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。 QRコード→



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈いします。

日頃から、家庭教育学級の運営にご尽力をいただき、ありがとうございます。昨年も、様々な乳幼児学級、家庭教育学級などを取材させていただき、委員のみなさん、園、学校職員のみなさんの家庭教育学級の献身的な運営に感銘を受ける日々でした。新しい年を迎え、今年度のまとめの時期となります。残り3か月、引き続きよろしくお祈いします。

お知らせ 今年度の役員の皆様へ



1 来年度への引き継ぎについて

新しい役員の方に引き継ぎをする時期になってきました。次のような視点で引き継ぎの準備をされてはいかがでしょうか。

- 今年度の活動を振り返りましょう
- 参加者の感想や要望を聞きましょう
- 一年を終えての役員としての感想を伝えましょう
- 参加・協力してくださった皆さんに感謝の気持ちを伝えましょう

各園、学校に続いている伝統的な家庭教育学級もあるかと思ひます。持続可能な活動として、新しい役員の方につながるよう、確実に引き継ぎをしていきましょう。

2 「閉級式」について

家庭教育学級の閉級式を実施される学校や園では、ぜひサロン型で自分の子育てを振り返る機会にさせていただくとよいと思ひます。今年できた家庭教育の成果や親同士のつながりを確かめることで、きっと多くの皆さんが「来年もみんなと学びたい。」という思いになられると思ひます。

3 令和7年度家庭教育学級リーダー研修会(乳幼児の部、小中学校の部)について

令和6年度は、総勢286名の園、小中学校の保護者、先生、公民館主事、各市家庭教育担当者の皆様などにご参加いただきました。

今年度まで、各市で実施してましたこの研修会を令和7年度は、東濃地区東部と西部に分けて2会場で実施することとします。

西部地区(多治見市、瑞浪市、土岐市)は5月9日(金)、会場を東濃西部総合庁舎にて

東部地区(中津川市・恵那市)は、5月12日(月)、会場を恵那総合庁舎にて

実施する予定です。詳細については、本通信2月号で連絡します。

家庭教育学級リーダー研修会の日程について、新しい役員の皆様へぜひお伝えください。

多治見市立陶都中学校 PTA 教育講演会 「頼まれごととは試されごと」

生徒会長からのお礼の言葉

日時 令和6年11月11日(月) 14:00~15:30
場所 多治見市立陶都中学校 体育館
講師 講演家 中村 文昭さん(クロフネカンパニー代表取締役社長)
参加者 全生徒(576名)、保護者(80名)



特別な能力がなくても人間は幸福になれるってことをみんなに伝えたい!

熱い思いを語る中村さん



多治見市立陶都中学校では、毎年秋にPTAが主催して教育講演会を実施しています。今年度の講師は、中村文昭さん(クロフネカンパニー代表取締役社長)です。実は、PTA会長、校長先生、教頭先生のお三方は、以前に中村さんのお話を聞かれ、「また、この人の話を聞きたい。」という思いをもってみえたそうです。その中村さんをお迎えしての教育講演会でした。講師の中村さんは、ご自身の体験を通してつかんだこと、学んだことを熱く語られました。中村さんのお話を聞いて自分の生き方のスイッチを入れた方がたくさんいらっしゃるようで、全国各地から講演を依頼されています。今回は36泊37日の講演会ツアーの途中中だそうです。この陶都中学校でも、生徒、保護者の生き方のスイッチを入れるべく熱く、力強いお話を伺うことができました。

< 中村さんのご講演 一部紹介します >

- 「幸せになるためなら、途中の失敗はなんでもない。」
- 「中学生のとき、クラス全員に無視された。その経験があるから、人に嫌われない言い方や、人と争わない方法を考え、身に付けることができた。」
- 「高校卒業して、三重県では、どこにも就職できないだろうと、東京へ出た。そこで、偶然に出会った人との話で、自分の生き方のスイッチが入った。」
- 「なんで(そんな行きたくない)高校へいっていったん?東京へは何のために来たんや?そう繰り返して聞く、偶然出会った人からの言葉に、心が揺さぶられる。」
- 「ぼくは、あなたのような人になりたい。弟子にしてください。」
- 「師匠が思っていること以上のことをやって、喜ばせたい。驚かせたい。そんなときは、人のせいにして、文句言いながら仕事をすることはしない。」
- 「夢なんかなくても大丈夫。夢なんか出てこなくても当然。少ない情報から無理やり口にしなくていい。」
- 「師匠から教えられた『働く』っていうことは…。ただ、一つだけ、『仕事で人を喜ばせること』。」
- 「リヤカーに野菜積んで売り歩く。スーパーと比べても、値段は高い、新鮮さで劣る、衛生面でも劣る。それでも、お客さんが買うてくれる。なんでか。……中村さんから、買いたいんよ。あんたやから買うて言うてくれる。」
- 「その秘訣は、誰でも出来る。『頼まれごととは、試されごと』、頼まれたことは、『なんで俺に頼むんや、他にも人はおるやろ!』と嫌々、しぶしぶやるんじゃない。頼まれたことは、自分が試されていると思って、その人に喜んでもらえるように全力でやる。これは、誰にでもできる、能力のない俺にだってできる。後は、やるか、やらないか、それだけだ。」

中村文昭さん 三重県出身
クロフネカンパニー代表取締役社長
主な著書:「僕たちの“夢のつかみ方”をすべて語ろう」(学習研究社)など多数

- 感想を紹介します。(たくさんの学びのある感想がありましたが、紙面の関係で生徒、保護者お一人ずつの紹介です。)
- ・中村さんの話を聞いて、人生(観)の見方が変わり、今までとは少し思考を変えて相手が好きようなことをしていこうと思いました。(生徒)
- ・「人を喜ばすこと」→「人間力」「人生を幸せに生きる」など心にささるお話を伺えて良かったです。中学生にはもちろん、大人の私にとって自分を振り返りチャレンジしたい気持ちにさせてくれる良い機会でした。ありがとうございました。(保護者)

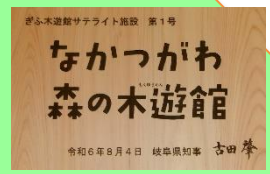
【このよさを学びたい!】自分の生き方のスイッチを入れる

親子で同じお話を聞く機会はなかなかありません。中村さんのお話はエピソード豊富で「生き方のスイッチ」について考えさせられるものでした。講演会の後、感想を聞き合い、これからの「生き方」を親子で一緒に話し合いたくなるようなお話でした。聞く人に「自分らしく生きること」の希望を与える力強いお話でした。



中津川市付知・福岡合同乳幼児学級 体験活動+サロン型
なかつがわ「森の木遊館」で遊ぼう

日時 令和6年11月18日(月) 10:00~11:30
参加者 付知・福岡地区 親子11組



木の温もりを感じられる施設での乳幼児学級 表情も柔らかに



中津川市付知・福岡の合同乳幼児学級の様子を紹介します。今年度は福岡地区で13組、付知地区では7組の親子が乳幼児学級に参加しています。合同で実施するのは、これで3回目、前回の五平餅づくりも大好評だったとのこと、今回は付知に新しく完成しました「森の木遊館」での乳幼児学級でした。

子どもたちは、館内にある「木のおもちゃ」「遊具」で楽しそうに遊んでいました。乳幼児学級の担当者からは、「ここ木遊館では、子どもたちは自分で遊びを見つけ、楽しめると思っています。今日は、子どもたちが遊ぶ姿を見守ってください。親が『こう遊ぶんだよ』と教えなくても大丈夫です。」とポイントとなる声かけをしてみました。

この日は、この施設を紹介する岐阜放送の番組収録があり、ミナモちゃんが来てくれました。番組では、子どもたちが木のおもちゃで遊ぶ様子が紹介される予定です。参加者の柔和な笑顔が印象に残る乳幼児学級でした。

「なかつがわ 森の木遊館」は、8月4日にオープンしました。子どもから大人まで幅広い年齢層の方が、木に触れ、木に親しみ、森林とのつながりを体感できる施設です。

主な内容
1 木の遊具で遊ぼう
2 サロンで話そう
「出産のときのエピソード」
*他地区での交流でとても盛り上がったテーマだそうです。

【参加された方に感想を伺いました】
家族で、いつも楽しく利用させていただいています。今回は、乳幼児学級ということで、同じぐらいの子たちと一緒に遊べるので、とても楽しみにしてきました。保護者の方とも、顔なじみになってきました。



すべり台で遊ぶ子を見守る



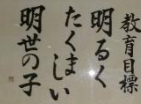
サロン型での交流の様子

【ここを学びたい】
地域の施設の有効活用
なかつがわ「森の木遊館」には、「すべり台」「木のプール」など木の温もりを感じさせる遊び道具がたくさんそろっています。仲間と一緒に遊べることも魅力です。お母さんたちも、グループごとでのお話も弾み、担当者の「今日はこれで終わります」の声かけの後、お話が続いていました。

瑞浪市立明世小学校 家庭教育学級 講話+サロン型

「おこづかい」が子どもの人生を変える おこづかい教育出前講座

日時 令和6年11月26日(火) 14:30~15:30
 講師 平井隆雄さん(ジブラルタ生命・ファイナンシャルプランナー)
 参加者 保護者15名



親として「おこづかい」を通して、子どもの習慣づくりを考える



保護者の皆様

案内文書もステキです

明世小学校の子育て委員は2名です。今回は、教頭先生と相談して、「おこづかい教育講座」の実施を決めました。近年の「闇バイト」、自己破産(年間約7万件)、多重債務の問題のように、お金にまつわるちょっとしたことで、人生が破綻してしまうこともあります。子どもに、お金の扱い方についてどう教えるとよいのか、親がしっかりと学んでおく必要があります。この日は、一年生保護者を対象にした「給食試食会、栄養教諭講話」の会もあって、保護者が仕事の休みを一回で済むような配慮もなされていました。

講師は、ジブラルタ生命マーケティングディレクターの平井隆雄さんでした。本社で、このプログラムを開発された方で、東京から来岐していただきました。この講習の元となった本『8歳からのお給料袋』(日本PTA全国協議会推薦図書、金融知力普及協会監修)についても教えてもらいました。講話の後半では、次の内容でグループ交流をしました。

グループ交流 6つのQ&A

- 1 値段の高いものをねだってきたら?
- 2 文房具など学校で使うものはどうする?
- 3 お手伝いにお駄賃をあげるべき?
- 4 良い成績のご褒美におこづかいをあげるべき?
- 5 お年玉はどうする?
- 6 お財布をなくした!

グループ交流の様子



保護者の交流を行った後、すべての問いに「専門家の意見は…」とまとめがあり、みなさん納得の表情でした。

【参加された方に感想を伺いました】

・6つの質問に対して、他のおうちではどうしているのか交流できて、とてもためになりました。わが家ではおこづかいを決めて渡しているのですが、こんなふうに「おこづかい」で習慣づくりができるのかと勉強になりました。ととても大事な内容なので、もっとたくさんの方に聞いてもらえるとよいと思いました。

【ここを学びたい】

・親として学ぶ必要性を感じる内容

2022年度から高校で金融教育が必修化になりました。「子どもに正しい金銭感覚を身に付けさせたい」、親ならば、誰も思うことです。それを家庭でどう教えるかは、親が自分でやるしかありません。自分流でもよいのですが、金融の専門家に学ぶことも大切だと感じました。